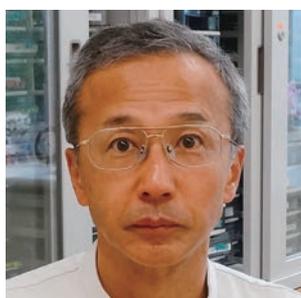
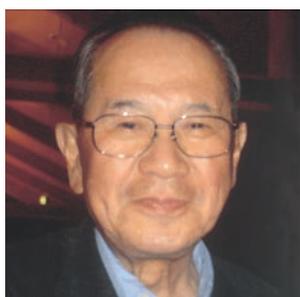


# めでいかすとり Médicastre



「申年の年男・年女」

年頭のごあいさつ



## ～2015年を振り返り今後を展望する～

一般社団法人 鶴岡地区医師会  
会長 三原 一郎

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、決意を新たに良き新年をお迎えのことと思います。

昨年は医師会長として4年目の年でした。鶴岡地区医師会の活動は医師会長だよりで報告している通りですが、役員、会員また職員の皆様の温かいご支援とご指導のおかげで、なんとか大過なく新年を迎えることができました。この場を借りて御礼申し上げます。

### ・悲しい出来事

一方で、昨年は今野拓先生がトライアスロン競技中に亡くなるという痛ましい事故があり、さらには、五十嵐裕先生が病に倒れ閉院という不測の事態となってしまいました。お二人とも、将来を囑望された優秀な内科医でしたので、当地区の医療体制にとって大変な痛手となりました。今野先生のご冥福をお祈りするとともに、五十嵐先生の早期の復帰を祈念したいと思います。また、両院に通院しておられた患者さんについては、内科系の先生方に引き継いで頂きました。ご支援、ご協力に深く感謝申し上げますとともに、会員・職員の皆様には、健康に十分留意されるようお願い致します。

### ・湯田川温泉リハビリテーション病院の今後

各種事業の運営は、多少苦戦している事業体もありますが、全体として概ね順調に推移していると評価しています。湯田川温泉リハビリ

テーション病院については、老朽化、狭隘化が喫緊の課題となっていますが、昨年末に鶴岡市から今後の方向性についての回答がありました。既存建物の大規模改修、病院が要望している施設整備などを市が実施し、少なくとも今後15年間は施設運営を継続していくとの内容でした。整備計画を平成28年度中に作成し、改修は次年度以降早期に実施するとのことです。

### ・医療連携に関する組織のあり方の検討

昨年のめでいかる新年号の年頭のごあいさつにも書かせていただきましたが、緩和ケア推進協議会と地域連携パス推進協議会との統合など、地域全体としての組織のあり方を検討する場として「医療連携に関する組織のあり方検討準備委員会」を立ち上げました。メンバーは、鶴岡市、荘内病院、医師会から10名程を募り、計6回の話し合いを行いました。結論から述べると、少なくとも来年度は統合せず、現状維持という結果となりました。マンネリ化しつつあるとはいえ、両協議会共に順調に運営されていること、それぞれの協議会の経済的な基盤が異なること、さらには、これまでさまざまな努力を積み重ね、築いてきた庄内プロジェクトという活動を縮小させたくないという関係者の思いも強かったのだと思います。現状を変えることの難しさを思い知りましたが、今後とも現状に甘んじることなく、より良い方向を目指した提言を行っていきたいと思っています。

一方、6回の話し合いは決して無駄ではありませんでした。地域にとっての課題は何なのか、それを解決するためにはどんな組織がふさわしいのか、じっくりと議論する時間を持つことができました。話し合いのなかで、これからの超高齢社会において地域に求められるのは「地域包括ケアシステム」の確立であり、それを検討する場としての組織が必要ではないかとのことで概ね意見が一致しました。これら議論を踏まえ、来年度は今までの枠組みとは異なったかたちでの体制になる可能性があります。今後のことは、市の予算のこともあり、未確定ですが、少なくとも委員会での率直な意見交換を通して、当地区に必要とされる組織への共通の認識が醸成されたのではないかと考えています。コミュニケーションはすべての出発点であることを再認識しました。

#### ・庄内脳卒中地域連携パス

鶴岡市民が日本海総合病院を受診する機会が増え、鶴岡地域の医療機関と日本海総合病院とのより密な連携が求められる時代となりました。現在、脳卒中地域連携パスは、酒田、鶴岡それぞれで運用されていますが、今後は庄内全域での統一した連携パスの運用が期待されています。そのような状況のなか、昨年よりは脳卒中の酒田・鶴岡統一連携パスの検討が始まりました。今年度は、数回の合同検討会議を重ね、本年4月には、IT化された新たなパスの運用が開始できそうです。刷新された庄内脳卒中地域連携パスのデビューを楽しみにしたいと思います。

#### ・地域医療構想

地域医療構想は、高齢者人口がピークを迎える2025年を目処に、病床の機能分化・連携を進めるために、医療需要と病床の必要量を推計

し、病棟単位で病床の再編を進めるというものです。山形県においても、県保健医療推進協議会の下に、「地域医療構想病床機能検討部会（県全体）」と「地域医療構想地域検討部会（村山、最上、置賜、庄内）」が設置され昨年からの検討が始まりました。2025年における庄内医療圏における必要な病床数は、高度急性期が現在の稼働病床665から208床へ、急性期が1,052から613床へ、回復期が316から709床へ、慢性期が627から594床へと推計されております。しかし、必要病床数が示されたとして、それをどう実現していくのか、地域で利害を超えた調整ができるのか、行政主導ではなく、現場（地域）主導での率直な話し合いの場が不可欠とされます。

#### ・医療事故調査報告制度

昨年10月から医療事故調査報告制度の運用が始まりました。制度の目的は、予期しなかった医療に起因する死亡または死産が生じた場合、医療事故の第三者機関（医療事故支援センター）への報告を義務化することで医療事故を集積・分析し、再発を防止することで医療の安全性を確保することにあるとされています。本制度は、個人の責任を追及するものではないとされていますが、報告することで、むしろ病院や個人の責任が追及されるのではないかという危惧が払拭されておらず、病院側には慎重な姿勢が伺えます。この制度が機能するには、報告はあくまで医療事故に起因する予期しない死亡・死産に限定され、過誤の有無に関わらず責任は追及されないことが保証される必要があると思います。

以上、昨年の当地区医師会や地域医療を取り巻くトピックを紹介し、年頭のあいさつとします。本年も、どうぞよろしくお願ひします。

年頭のごあいさつ



## 鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院における 今年の動きと、今年の当院の方向性

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院  
院長 武田 憲夫

鶴岡地区医師会会員の皆様、職員の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。旧年中は、当院運営に関して、色々のご指導、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新年に当たり、今年の当院の主な動きと今年の方針について述べさせていただきます。

### 1. 経営状況

未だ年度途中ですが、幸い今のところ入院患者数が昨年度（平成26年度）より増えており、収支の改善が見られています。これは、荘内病院からの入院申し込みが順調であったことでもあります。重症患者さんや問題のある患者さんでも積極的に受け入れ、また、診療所の先生方から要請のあった患者さんの受け入れもスムーズに行ってきたためもあると思います。また、経営上の重要な柱である「回復期リハビリテーション病棟入院料1」の加算条件も、荘内病院のご協力もあり順調にクリアしております。これらの達成には、当院職員の積極的かつ柔軟な対応と努力が極めて重要である事は言を俟ちません。

### 2. 日本医療機能評価機構からのリーフレット作成の依頼

昨年3月に、「リハビリテーション病院」として病院機能評価の認定を得ましたが、その後、日本医療機能評価機構から、当院が機能評価受審に際して進めた「医療の質の改善活動」を紹介したいので、当院のリーフレットを作成

させて欲しいとの申し入れがありました。11月6日に日本医療機能評価機構から4名の方が取材のため来院され、1日かけて関係職員へのインタビューと院内を視察して帰られました。この病院のリーフレット作成事業は日本医療機能評価機構が昨年からはじめたもので、当院が全国で5病院目、リハビリテーション病院では初めてのことです。このリーフレットは3,000部印刷され、機能評価受審予定施設や研修会などで全国的に配布されるとのことです。このことは、当院の機能、システム、職員のチームワーク力などが、リハビリテーション病院として全国レベルで客観的に高く評価されたと考えて良いと思います。この取材に来られた方からの御礼のメールも嬉しい内容でしたので、そのままご紹介します。「たった1日のインタビューや見学ではございましたが、皆様の何気ない会話からも、職員の皆様1人ひとりが患者さんを第一に考え、様々な工夫や努力をされ、誇りを持って働いている様子がかがえました。また、今後の病院機能評価を考えていくうえで非常に参考となるご意見を伺えました（原文まま）」という内容でした。これらのことは、当院職員が、それぞれの専門分野で、職種で、日夜、人知れず努力し、培ってきている医療人としての魂が、きちんと評価されたことと素直に喜び、誇って良いことと思います。私自身、このような職員と一緒に仕事が出来ていることを、有り難く、誇らしく思っております。これから

も、これに満足することなく、奢ることなく、患者さんのため、よりレベルの高い、温かで希望のある医療を職員一同で目指して行こうと思っております。

### 3. 「医療事故調査制度」への対応

昨年10月から「医療事故調査制度」が始まりました。医療が原因で死亡した例を、医療事故調査・支援センターに遅滞なく報告する法的義務が生じました。その目的は、事例を集積してより安全な医療を目指すものと謳われていますが、状況によっては司法が関与して来ないとは言えません。事例に最初に遭遇するのは個々の職員ですので、対応方法はこの度改訂した当院の「医療安全管理規程」に記載し、職員に周知を図っています。医療における合併症と報告すべき医療事故との区別が難しい事例も想定され、実際にどこまでがこの報告制度に入るかは分かり難いところがありますが、県医師会、山形大学医学部などのサポート体制も整備されつつあり、そのご協力の下に、制度の目的に沿った対応をしていきたいと思っております。

### 4. 当院に対する鶴岡市の方針

平成25年10月28日に三原医師会長と連名で榎本市長に提出した、「将来計画プロジェクト会議設立の要望書」に対する回答が11月27日榎本市長より出されました。その結果、①少なくとも2040年までは鶴岡市が当院を継続維持する。②病院本体の耐震性は今後15年ほど問題ないとの老朽化診断の結果を踏まえ、建物本体は当分このまま使用を続ける。③老朽化したインフラ設備と機器の更新、要求しているリハ室や食堂の狭隘化などには市が対応する、というものでした。その席で、私からあらためての市への要望として、「老朽化した機器、設備の更新のみでは病院のレベルアップには繋がらない。当院の

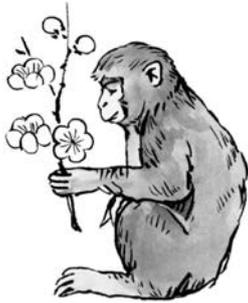
レベルアップのための整備、たとえば職員のための保育システム、電子カルテなどの導入等に配慮いただきたい」とお願いしました。早ければ、来年度には整備内容についての具体的な話し合いが始まると思われます。

### 5. 今後の医療体制について

これからの医療、特にリハビリテーション医療のあり方を考えると、リハビリテーション対象疾患の拡大と、在宅、訪問医療への対応が重要な方向性と考えます。がんリハビリテーションへの対応が可能になるよう、昨年秋に4名の職員が研修を受けました。当院にがん治療認定医が1名おり、今後がん患者さんへのリハビリテーションも推進していく予定です。また、職員の、認定看護師や認定療法士の資格獲得を推進していく予定です。

超高齢社会となる2025年問題に対して、当院が今年、どう対応して行くべきかを検討し計画を立て、実践して行くことが必要です。これからの厳しい医療状況の中で、患者さんに選ばれ、また、職員が当院で誇りを持って安心して勤務し続けていけるような、さらには、これから医療を担って行こうという気概のある若者たちに勤務先として選ばれる、そんな病院にするために、質の高い、患者さんに寄り添った、温かく安全な医療を提供出来る病院を目指す必要があります。昨年当院で立ち上げた、全職種が参加する「当院の将来のあり方委員会」を核にして、病院の将来のあるべき姿を描いて、その実現に向けて、職員皆が気持ちを一つにして、一丸となって前に進んで行きたいと考えております。

表紙写真にご協力いただいた先生の紹介（敬称略）

佐藤 剛	鈴木 伸男	後藤 興治
中村 秀明		梅津 尚男
吉田 宏		遠藤 睦美
島田 高志	吉田 幸恵	須田 克幸



## 新年の抱負（年男・年女）

**鈴木 伸男**（荘内地区健康管理センター）

7回目の年男になり、日本人の平均寿命も3年前にクリアしました。しかし要は「健康寿命」です。その維持・延伸を目指してこれからも過ごしたいと思っていますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

**後藤 興治**

80才を過ぎてから今年の抱負について語ることは容易ではありませんが、健康に留意しながら日本の各地を旅行して、古い日本の歴史と各地の景観を楽しみたいと考えております。

**佐藤 剛**（佐藤医院）

4才の頃、父の元によく大人がやってきた。平仮名を覚え彼等の話には新聞一面記事が繰り返されるのが分かった。社会人へと私の成長につれ大人はみんな古希の前後で亡くなっています。自身が今そこに居ると思えば、小さい時から親しく教えていただいた方々に合掌です。

**梅津 尚男**（湯田川温泉リハビリテーション病院）

本年もご指導くださいますようお願いいたします。

『小器われ晩成もせず永らえて凡器を抱き安らかに生く』と先輩の賀状にありました。小生もせめてそう言えるようになりたいと思います。

**中村 秀明**（中村整形外科医院）

60歳という節目を迎えることになりました。気持ちはまだ20代です。山で例えると5合目、頂上が見えません。山頂が見えるまで頑張っていく所存ですので、今後ともご指導宜しくお願申し上げます。

**遠藤 睦美**（遠藤医院）

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願申し上げます。今年の目標“余裕と笑顔”のサル

**吉田 宏**（荘内病院）

ついに5回目の年男が巡ってきて、若い頃には想像もできないくらいの年齢に到達してしまいました。知力、体力、視力、記憶力は年々劣化する一方ですが、もう少し頑張ります。

**須田 克幸**（須田内科クリニック）

あけましておめでとうございます。

おかげさまで開業して10年目になりました。

今年で還暦になりますが、気力体力が続くかぎりがんばるつもりです。

今後ともよろしくお願いたします。

**島田 高志**（島田クリニック）

「ひきつづきマスターズ陸上、中距離と投擲二本立てでがんばります。」

…あの、本業の医師としての抱負は？

「……Mmm」

…それじゃ駄目だろ！

**吉田 幸恵**（荘内病院）

あけましておめでとうございます。何かと喧しい昨今、平穩に新年を迎えられ幸せです。いろいろな事がありますが、「禍福はあざなえる繩の如し」万事この精神であたりたいと思います。皆様のご多幸をお祈りいたします。



日時：平成27年11月28日(土) 14：00～  
場所：いろり火の里 なの花ホール

## 平成27年度 緩和ケア市民公開講座

庄内プロジェクト 佐藤 久美

去る平成27年11月28日(土)南庄内緩和ケア推進協議会主催による緩和ケア普及のための市民公開講座が、三川町「いろり火の里 なの花ホール」にて開催されました。

前日から発令された暴風警報の中ですが、当日はスタッフを含め180名の来場者となりました。

### テーマ 『乳がんが教えてくれた 私らしい生き方』

- 庄内プロジェクト 「緩和ケアについて」  
庄内病院 鈴木 聡先生
- パネルディスカッション  
「この地域の乳がん検診について考えてみよう」  
コーディネーター  
緩和ケアサポートセンター長 鈴木 聡先生  
パネリスト  
医師会庄内地区健康管理センター 健診課 五十嵐ちづる氏  
鶴岡市 健康課 増田 富美子氏  
庄内病院 乳がん看護認定看護師 竹内 梨紗氏
- 講演 「乳がんが教えてくれた 私らしい生き方」  
講師 モデル 園田マイコ氏



今年の講師には、モデルで活躍中の園田マイコさんをお迎えしました。マイコさんは、39歳で乳がんの手術を受け、一年後に「モデル40歳。乳がん1年生。」を出版し、若い女性から多くの支持を得ています。ピンクリボン運動の講演活動などを全国で展開。21歳の息子の母でもあります。

現役のモデルさんとあってスラリと美しい容姿には入場と同時に会場のアチコチからため息が漏れていました！！ ここですすでにご利益があった感じでした。

その容姿に反して気さくな雰囲気、乳がんと診断されてから病気と向き合い乗り越えるまでの家族や職場の支えがいかに大きかったかななどを、ひと言ひと言丁寧に伝えていただき、会場もスタッフも思わず涙する場面もありました。

パネルディスカッションでは、この地域の乳がん検診の実情を3人のパネリストにそれぞれの立場からお話を聞くことができました。日曜検診を実施していることなども情報として知ることができて検診率のアップにつながるのではないのでしょうか。

### 来場者から

検診の大切さを改めて実感した。必ず検診を受けます！ 自分も乳がんで、治療のフルコース中だけど勇気と元気をいただきました！ など嬉しい感想が届いております。

この緩和ケア市民公開講座は、庄内プロジェクトに参加する医科・歯科医療機関、保険調剤薬局、行政その他の皆様のご協力により盛会に終わることができました。スタッフとしてお手伝いいただきました皆様にも、厚く御礼申し上げます。



## Introduction

## 研修医

No.11

## 言葉について

鶴岡市立荘内病院研修医1年目 さくらい ひろき 櫻井 裕基

あっという間に、12月になってしまいました。ということは、鶴岡に来て、そして医者になって8ヶ月、半年以上も経ったということです！なんて、早い！まさに烏兔匆匆であります！

申し遅れました。私は、荘内病院で研修医1年目として勤務している櫻井裕基と申します。出身は山形市、高校は山形東高校、大学は新潟大学。山形出身以外の方には「ああ、実家の近くの病院に帰ったんですね！」なんて言われます(苦笑)が、全く、違いますよね！言葉も食も文化も何もかも(笑)！ですので、鶴岡で新鮮に楽しい気持ちで生活出来ております！

閑話休題。最近、言葉についてよく考えます。それも、鶴岡で「まぐまぐ」の洗礼を浴びたからですね(笑)。僕自身は、日本語と英語しか話せません。山形弁(ずーだべー)も抜けてしまって話せなくなってしまいました。聞き取りは出来ませんが(笑)

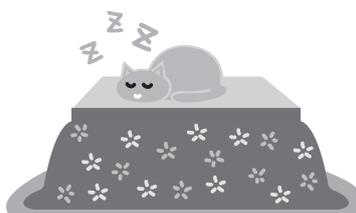
そんな状態ですので、鶴岡の言葉は、4月には聞き取りすら出来ない状況でした(当然ですね)。ですが12月になった今「まぐまぐ」すらも何となく理解している私があります。毎日、患者さんと沢山お話しているからでしょうか？

しかし、冷静に考えると、これは本当に、本当に、本当に、驚愕の事態なんです！僕は言葉を学ぼうとしていないんですから！英語を学ぶように、単語帳を作ったり、辞書をひいたりしたわけではありません。患者さんと会話した、だけです。

この感覚、この事実は、人間が母国語を習得する過程と同一です。幼少時、周りの大人に、何度も訂正され教えられ、気付くと日本語を母国語として習得する、その過程。言葉の本質的で原初的な習得の仕方を再体験した気分です。

私は鶴岡で気付かぬ内に、周りの方々に教えられ、色々なことを学んでいます。これから、1年半弱、もっともっと色々なことを学び取り充実した日々を送りたいと思います！

追伸。私が尊敬する物理学者の1人、ファインマンは「“本当にわかった”と思うのは、物事に二通り以上の説明が出来た時だ」と語りました。「まぐまぐ」＝「気持ち悪くて、混乱して吐きそうで、頭がおかしくなりそうな感じ」合ってますよね(笑)？





## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。皆様には、健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。旧年中はめでいかすとるにたくさんのご寄稿をいただき誠にありがとうございました。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、鶴岡市内は全く雪のない年明けとなりました。この先どのくらい雪が降るかわかりませんが、私にとっては駐車場の除雪をしなくても済む車の運転の点でも楽な冬となっております。しかし、スキー場の営業が出来ないなど困った状況もあるわけで、やはり冬は冬らしく雪がないとしくりきません。

大晦日の夕方、この季節には珍しく青空があったため湯の浜に夕日を見に行きました。水平線には雲がかかっていたため日没までは見ることはできませんでしたが茜色の空は感慨深いものがありました。初日の出に対して終日の入り？ラストサンセット？とでも言うのでしょうか。大晦日の夕日に1年無事に過ごせたことを感謝してきました。

今年も1月号の表紙を年男、年女の先生方に飾っていただきありがとうございました。この新しい年がより佳き年でありますよう心からご祈念申し上げます。

(三浦 道治)



編集委員：三浦 道治・福原 晶子・三科 武・斎藤 高志・中村 秀幸・伊藤 茂彦

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail [ishikai@tsuruoka-med.jp](mailto:ishikai@tsuruoka-med.jp)

ホームページにも掲載しております  [鶴岡地区医師会](http://www.tsuruoka-med.jp)  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>